

鮭 神 社

鮭神社の創建は奈良時代の宝亀元年（西暦七七〇年）で、祭

ひこほほでみのみこと うがやふみあえすのみこと とよたまひめのみこと
神は彦火火出見尊、鸕鷀草薙不合尊、豊玉姬尊の御三柱を祭っております。

この鮭神社は全国的にも珍しい神社で、海に帰られた豊玉姫尊が、恋しい夫や愛しい息子に対し、使いとして鮭に便りを託されたと伝えられており、この神社の周辺に鮭が上ってくれば豊作として五穀豊穰や無病息災を喜び、もしこれを途中で捕まえたり食べたりすれば災難にあつと古くから言い伝えられており、そうしたことからの土地の人々は古来より鮭を食べないという風習がございいます。

昭和五三年には、数十年来途絶えていた鮭が、遠賀川の下流で捕獲され、以来毎年のように遡上が確認されるようになりました。

毎年十二月十三日の鮭献祭当日は、氏子、地域住民はもちろん、水産業関係者も一同に参拝し、遠賀川（嘉麻川）を遡上してきた鮭を含めて鮭塚に鮭を奉納しております。

なお、境内には鎌倉時代に植樹されたといわれる嘉麻市指定天然記念物の「夫婦楠」があり、また鮭の遡上は産卵を伴うことから、縁結びや夫婦円満、子宝に恵まれるとの御利益があるといわれております。